

病診連携ニュース

ねつとわーく

Net Work 2023年夏号 No. 81

灼熱の夏

それでも釧路はすごしやすい。
避暑へお越しください。

乳がん最新の話

食べるを医学する外伝！～魔法の痩せ薬？～

ひらい歯科クリニック NEW CLINIC

COVID-19 終末期 在宅療養支援 訪問診療始動

当院の乳がん診療

乳がんの最新の話題 ～遺伝性乳がんについて～

女性の9人に1人が乳がん

乳がんは女性のがんの中で最も多いがんで毎年9万人、女性の9人に1人が乳がんにかかりますが、早期に発見し治療を行えば治るがんです。そのためには日頃の自己検診や定期的な乳がん検診がとても大切です。

早期発見のための乳がん検診には乳房X線検査（マンモグラフィ）と乳腺超音波検査がありますが、当院では最新装置を設置して女性技師が検査を担当し、患者様の負担を少しでも減らせるように努めております。

乳がん治療の基本は手術でがんを取り除くことですが、手術だけで終わりではなく、一人ひとりのがんの性質に応じて薬物療法や放射線治療を適切に組み合わせた治療が必要で、長期にわたるケアが重要です。最近の乳がん治療の進歩は目覚ましく治療成績も年々向上しています。が、私は釧路・根室地域でも最先端の医療を提供できるようにしたいと願って、2022年に日本乳癌学会乳腺専門医資格を取得しました。当科では他にも乳腺認定医が2名おり、あわせて3名が中心となって乳腺疾患全般の診療に当たっています。

「遺伝性乳がん」とは？

乳がんの最近の話題に「遺伝性乳がん」

があります。乳がんの多くは後天的要因で発症しますが、遺伝する乳がんもあることが知られており、その代表的なものが「遺伝性乳がん卵巣がん症候群（HBOC）」です。乳がん患者の5～10%がHBOCとされますが、米国有名女優の告白で一般の方にも知られるようになりました。HBOCは

「BRCA1/2」という遺伝子に病的変異があるもので、親から子へ50%の確率で受け継がれ、女性であれば乳がんや卵巣がん、男性は前立腺がんにかかるリスクが非常に高いことが知られています。

乳がん患者様は一定の条件を満たせばBRCA1/2遺伝学的検査を受けることができます（図参照）。当科でも検査を実施しており、もしHBOCだった場合にはBRCA1/2変異を対象とした薬物治療や対側の乳がん発症を予防するためのリスク低減手術を受けることができます。またHBOCと診断された患者様のご家族には、北海道大学乳癌外科や臨床遺伝子診療部と連携しながら遺伝カウンセリングや遺伝学的検査を提供できる体制も整えています。

違和感やしこりなどの不安のある方は、わずかな症状でも

乳がんは早期発見と早期治療がとても大切です。乳房に違和感やしこりなどの不安のある方は、わずかな症状でも構いませんので、すぐに外来をご受診く

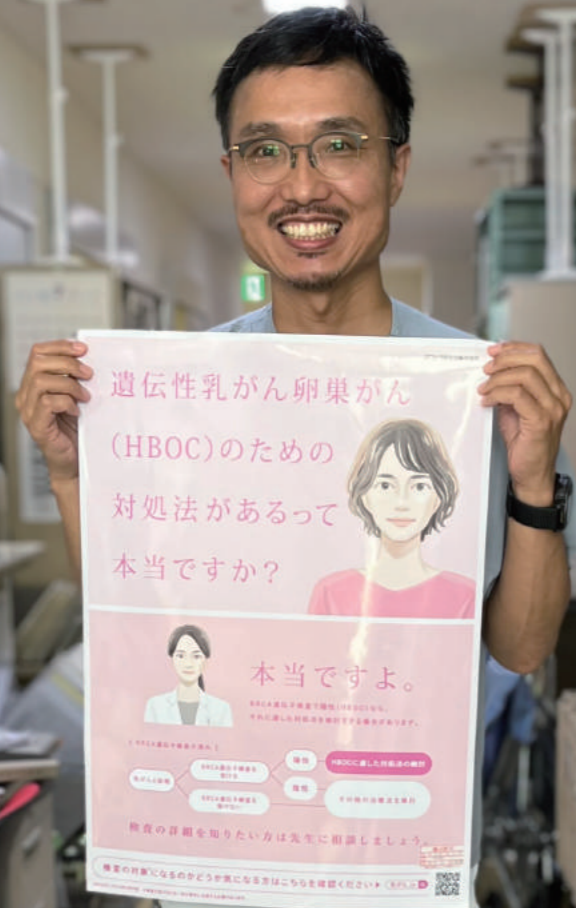
ださい。また乳がん診療は日々進歩しており治療の選択肢も広がってきています。乳腺専門医へのご紹介やセカンドオピニオンも随時承っておりますので、お気軽にご連絡いただけますと幸いです。

BRCA1/2遺伝子検査のためのかんたんチェック

- 45歳以下の発症
- 60歳以下のトリプルネガティブ乳がん
- 2個以上の原発乳がん発症
- 第3度近親者内に乳がんまたは卵巣がん発症者がいる
- 男性乳がん
- 近親者にBRCA1/2遺伝子変異がある



2023/1/23に開催の「テイネトレイル 2023」に参戦。走ることに貪欲に、乳がん治療にも貪欲に、少しでも乳がんのことが気になる方は是非、金古先生へ相談下さい。



PROFILE

釧路赤十字病院 外科部長

金古 裕之 Kaneko Hiroyuki

平成9年 旭川医大卒

日本外科学会外科専門医

日本乳癌学会乳腺専門医

日本消化器病学会消化器病専門医

日本消化器病学会消化器病指導医

日本消化器外科学会消化器外科専門医

日本がん治療認定医機構がん治療認定医

日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医

日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会乳房再建責任医師

ICD 制度協議会インフェクションコントロールドクター

アメリカ外科学会認定 ATOM インストラクター

JATEC インストラクター

日本救急医学会認定 ICLS インストラクター

DMAT 登録隊員（統括 DMAT）

検診マンモグラフィ読影認定医

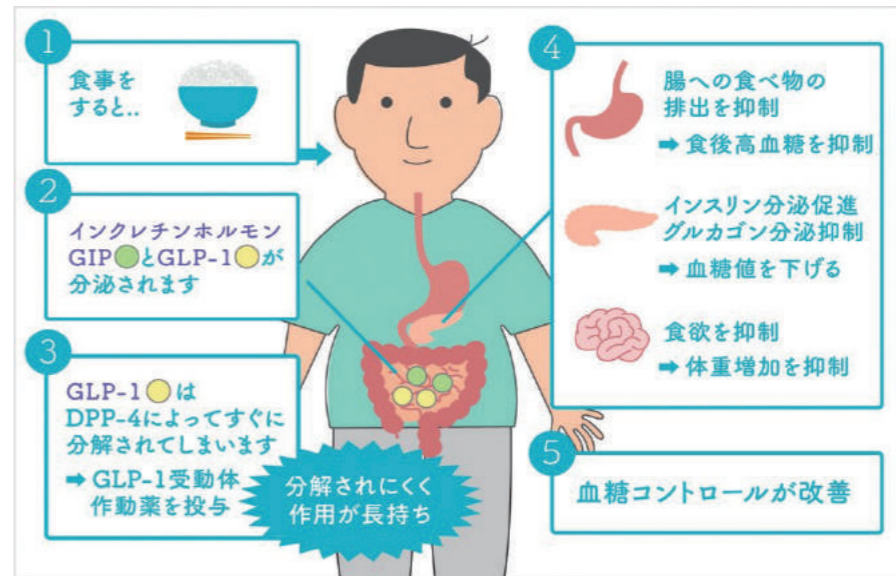
日赤災害医療コーディネーター

日本 Acute Care Surgery 学会認定外科医

日本腹部救急医学会腹部救急認定医

食べるを医学する外伝！～魔法の痩せ薬？Σ(・ω・ノ)ノ！～

あなたはその薬を飲みますか？



『痩せたい！でも食べた～い！』そんな宣伝ありましたよね？これってかなり多くの人が思っている本音の気持ちじゃないでしょうか？そんなあなたの希望を叶えてくれる薬があるとしたら？あなたはその薬を飲みますか？

我々が食べ物を食べた後、食べ物は食道を通り、胃の中で胃酸によってドロドロに消化され、炭水化物は膵臓から出るアミラーゼなどの消化酵素で炭水化物の最小単位であるブドウ糖まで分解されるのです！そしてブドウ糖がやって来たことを知らせるホルモンが小腸から分泌されるのです！それがGLP-1をはじめとする『インクレチン』という名前のホルモンなのです！

『インクレチン』は食べ物 came ことを膵臓に伝える役割を持っており、膵臓ではこの『インクレチン』の指令によって血糖を下げるインスリンを分泌し、血糖を上げるグルカゴンを抑制します！そして満腹感を刺激して、食事摂取を抑制してくれます！

この『インクレチン』は、体内ではDPP-4という酵素によって速やかに分解されてしまいます！ですからご飯が終わると血中濃度が下がってしまいます。そこでDPP-4という酵素で

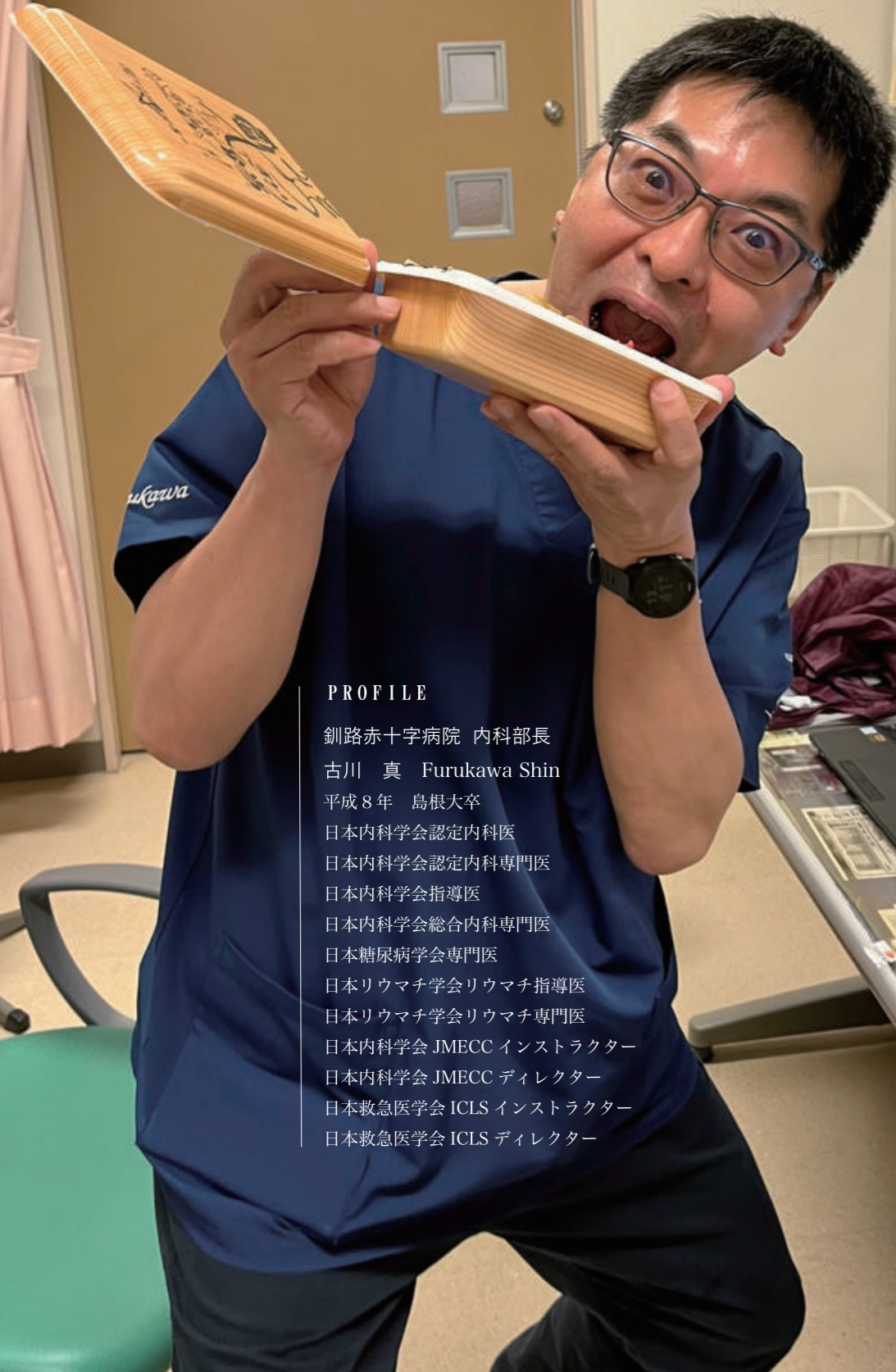
分解されにくい『インクレチン』類似物質である『GLP-1受容体作動薬』というのが開発されてきました！ですから、この『GLP-1受容体作動薬』というのは、『インクレチン』と同様に血糖を下げるインスリンを分泌し、血糖を上げるグルカゴンを抑制し、満腹感を刺激して、食事摂取を抑制してくれる、更なる持続時間が長くなるということになるのです！簡単にいうと食欲が減って食べ過ぎなくなるということになりますね！『食べた～い』の部分が抑制されるといことになります！

要するに食べる量が減って痩せるってことですよね！効果は勿論人によって大分差はありますが、ざっくり平均で体重の5%程度でしょうか？80kgの人なら4kg位でしょうか？残念ながら副作用もあって、食欲が抑制され過ぎて悪心・嘔吐を来したり、下痢・便秘などの消化器症状が出る場合があります！あと、あくまで『糖尿病』の薬ですので、勿論処方してもらうには主治医の先生と相談の上という事になります！結局この薬も魔法の薬ではなく、『食べる』を取るか？『痩せる』を取るか？です！さて、あなたはこの薬使いますか？



GLP1 受容体作動薬には幾つか種類がありますが、現在は『オゼンピック®』という週1回の皮下注射薬や朝起床直後に内服する『リベルサス®』という飲み薬が主流になってきています。あくまで『糖尿病薬』であることを前提として、副作用として悪心・嘔吐・便秘・下痢などの消化器症状がでることがありますので、主治医の先生とよく相談の上処方してもらうかどうかを決めて行きましょうね！

釧路のお隣の市、根室市名物、株式会社タイエーの「元祖みそやきとり弁当」。是非、根室と釧路へお越し頂きご賞味ください！



PROFILE

釧路赤十字病院 内科部長
 古川 真 Furukawa Shin
 平成8年 島根大卒
 日本内科学会認定内科医
 日本内科学会認定内科専門医
 日本内科学会指導医
 日本内科学会総合内科専門医
 日本糖尿病学会専門医
 日本リウマチ学会リウマチ指導医
 日本リウマチ学会リウマチ専門医
 日本内科学会 JMECC インストラクター
 日本内科学会 JMECC ディレクター
 日本救急医学会 ICLS インストラクター
 日本救急医学会 ICLS ディレクター

訪問歯科診療を取り入れた当院の取り組みについて

新型コロナウイルス感染症が5類にはなりましたが、まだまだ日常には戻っておらず、皆様苦慮されているかと思えます。今回、新規開業に伴い、原稿依頼がありました。自分などが原稿を書くのはおこがましいので断ろうかと思いましたが、少しでも地域の方に現在の歯科について知ってもらうために、拙い文章ではありますが、書かせて頂くこととなりました。

訪問歯科診療に力を入れています

当院の他院との大きな違いは在宅療養患者数の増加が予想されるため、訪問歯科診療に力を入れている点だと思います。今後、ますます高齢化が進むことで更なる訪問の需要が増加していくものと考えられます。歯医者さんも訪問するの？と思う方はまだまだ多いかもしれませんが、訪問診療下でも虫歯の治療、抜歯、義歯の製作・調整、根の治療など外来と変わらぬ治療を行うことが可能です。また昨今増えているのは摂食・嚥下障害の患者さんです。病气や加齢により今まで普通に食べられていたものが食べにくくなってきた、薬が喉につっかかる感じがする、水分がむせるようになってきた等の症状がある場合は誤嚥性肺炎のリスクが高くなっています。歯科は口

から物を食べられるようにするところです。一般の方の中には歯茎でしっかり咬めていると話される方が多くいますが、嚥下内視鏡で確認すると、ほぼ丸呑み状態であることが確認できます。こういった方は嚥下機能が低下していると窒息のリスクもあります。摂食・嚥下の分野には多職種が関わっておりませんが、こういった歯に関わることは歯科特有の分野であるので、もしお困りの点がありましたら、是非お近くの歯科医院に相談して頂きたいです。

釧路市内の歯科診療に新しい風を

現在釧路市内における歯科医師の高齢化も進んでおり、10年後には多くの歯科医院が閉院していると予想されます。若手は頑張っていかなければなりません。

この度、訪問歯科診療を行うということで、釧路赤十字病院の地域医療連携室が広報活動に関わってください、訪問の認知度が上がり、多くの患者さんにとって利便性が上がってくれたらと思います。釧路市内の歯科医療に新しい風を吹かせていけるよう精進して参りますので、今後とも何卒宜しくお願い致します。



PROFILE

ひらい歯科クリニック

院長 平井 尚哉 Hirai Naoya

1987年釧路赤十字病院生まれ

北海道大学歯学部卒業

北海道大学病院歯科麻酔科

市立釧路総合病院歯科口腔外科

おかだ歯科

どいがみ歯科医院

を経て、ひらい歯科クリニック開業に至る

老年歯科医学会会員

日本摂食・嚥下リハビリテーション学会認定士

北海道障がい者歯科医療協力医

ひらい歯科クリニック



釧路市桜ヶ岡 2-6-10
TEL 0154-64-1834



COVID-19による面会制限から生じた 終末期患者と家族の過ごし方の変化に対応する在宅療養支援の重要性 －訪問診療の始動－

終末期に家族と過ごす時間

COVID-19による面会制限により、私が専門としているこの緩和ケア分野において、終末期の患者さんと家族の過ごし方が変化しました。入院患者に対する面会の制限により、終末期の患者さんが家族と共に過ごすという時間や場所に制限を与え、人生の穏やかな最期の時間を奪う結果となっています。このような制限が生じる背景から、終末期の患者さんが在宅療養を希望し、在宅療養を選択するケースが増えました。

当院は訪問看護ステーション、
居宅介護支援事業所に加え、
訪問診療を立ち上げました

このようなニーズに対応すべく、当院でも、2020年から終末期の患者さんの在宅療養支援に積極的に取り組んできました。昨年2022年は31件の在宅療養支援を実践し、COVID-19感染拡大前の6倍の支援となりました。また、昨年2022年実践した訪問診療は14件で看取り往診は5件でした。当院の訪問看護ステーションや居

宅介護支援事業所との連携でスムーズな在宅療養への移行が可能であり、終末期の患者さん及びその家族のニーズに対応できました。そして、今年度からは訪問診療科を立ち上げ、各診療科医師の訪問診療に加えて各診療科医師で訪問診療ができない場合のケースにも当院で継続した在宅医療の提供を実践しています。訪問診療でみる患者さんの姿は病院で過ごす姿とは違い、笑顔も多く、なにより「病院にいるより元気だ」とお話しする患者さんも多いです。これまで長く生活してきた自宅での環境の居心地さ、家族と共に過ごす時間、好きな物を好きなときに食べられる、たばこを吸えるなど患者さんそれぞれで在宅療養のメリットも違いですが、口をそろえてこれらの在宅療養の心地よさを語られます。

COVID-19により終末期の患者さんの最期の時間に変化がみられる今、これをチャンスと捉え、最期の時間を家族とともに過ごせるよう、また患者さんが望む生の充実を叶えるためにも在宅療養を支援することは重要であると考えています。終末期の患者さんの在宅療養を支える重要なことは介護にあたる家族支援、また地域や在宅スタッフとの連携とも思います。病

院と地域・在宅スタッフが気軽に相談し合いながら在宅療養を支援できる体制ができることを願い、当院からも地域へ発信していきたいと思っております。



訪問診療先の
患者さんと
外科・真木部長



PROFILE

釧路赤十字病院
緩和ケア認定看護師
泉谷 理恵
Izumiya Rie

New Doctor Introduction

PROFILE

眼科医師
2023/6/1赴任
伏津 壘 (フツルイ)
旭川医大2017年卒
宜しく申し上げます。



病診連携ニュースねっとわーく No.81
2023年7月31日発行

編集・制作・発行 / 釧路赤十字病院
地域医療連携室
印刷 / 株式会社須田製版
問合せ / TEL 0154-22-7171



灼熱の夏、それでも釧路は30℃超えの日は殆どない。是非、避暑地、釧路へ。
当院へのご要望やご意見、本誌へのご感想等、QRコードよりお寄せ下さい。